御茶壺道中 その四

内藤恭義

茶壺谷村保管のはじまり

茶壺道中が復路は甲州街道を通ることとされた理由は、湿気や高温を極度に嫌う茶を運ぶには、海ぞいの東海道を通るよりも、比較的冷涼な中山道や甲州街道を通る方が、安全で優れているとされたことと、茶を夏越しさせる保管場所に甲州谷村が選ばれたことによるものです。

『厳有院殿御実紀』には承応三年（一六五四）十月十四日に甲州谷村に茶壺を受け取りに行くことを命じた日録のあと、付記があって一国初には宇治の茶をとる事、歩行頭京にまかり、その茶を壺に納め、愛宕の山頂に納め、一夏をすごして冬にいたり、江戸に持ちかえりしが、中頃より愛宕をとどめられ、京より直ちに甲州谷村へつかはし、夏中おかれたりしとぞ一と事情が紹介されています。

同じような記録が『有徳院殿御実紀』にもあって、はじめは茶壺を愛宕山に納めたが、将軍家綱のときから甲斐国谷村に納めるようになったことを記しています。

これらの記録からみると、谷村に茶壺が保管されるようになったのは、将軍家綱の時以降となるのですが、この記録は疑問とされています。というのは、茶壺道中に縁の深い宇治市で発行した『宇治市史』は①幕府の資料に愛宕山へ預けた記録、あるいは、愛宕山へ受け取りに行った記録が全くないこと。②愛宕山諸坊に、朝廷や諸大名の預かり史資料はあるが将軍家のものは全くないこと。③京都の西で宇治よりさらに遠くなる愛宕山に預けることは合理的でないこと。④愛宕山に預けると大々的な茶壺道中を年に二度も行わなければならないなどの点をあげて、愛宕山での保管は、はじめからなかったであろうとしています。

それを裏付けるような記録が徳川家光時代の『大猷院殿御実紀』に見られます。

宇治御茶壺の巻の内 御茶壺出立の図
国会図書館蔵

寛永十八年十月五日の記録では「歩行頭石野八兵衛氏照甲州へ茶壺をとりに参るとて暇給ふ」とあり、つづいて三日後の十月八日には「歩行頭石野八兵衛氏照甲府よりかへり参る」と記しています。甲府と書かれているのが気がかりですが、三日間では東京－甲府の往復はできないので、甲州の記録違いで、この場合、甲州谷村へ取りに行ったと推定されます。

こんなことから記録上甲州保管は少なくとも寛永十八年まで遡れるので、『宇治市史』のいうようにはじめから愛宕山保管はなかったとするのが正しいと思われます。

そうだとすると、谷村保管は、秋元泰朝が入部した寛永十年（一六三三）、即ち、茶壺道中が制度化されたその年からはじまった可能性がとても強くなるのです。

ふるさとの

7月

7日　七夕

10日　四万六千日　普門寺

15日　お天王さん《祇園祭》（横町）

24日　愛宕地蔵尊　長安寺
奉納相撲
太宰府天神社（境）

25日　お天神さん　天神社（鍛冶屋坂）
太宰府天満宮祭
永寿院

8月

1日　石船神社例祭
石船神社

第二回ふるさと探検隊

ふるさとの宝を訪ねる「ふるさと探検隊」の第二回は、宝地区の厚原・平栗・加畑方面です。牛石遺跡から平栗分校跡・浅間神社等を経て天神峠を大幡へ抜けるコースです。ふるってご参加ください。

日　時　7月9日（土）
午前9時20分集合

集合場所　谷村信用組合宝支店駐車場

持ち物　弁当・飲物・筆記用具

服　装　軽装・運動靴・帽子

対象者　小学生以上一般

申込方法　電話で左記へお申し込みください

ふるさと探検隊実行委員会
四日市場256　明治興業内
古屋好之　☎(43)5531

映画会のお知らせ

「ライヤンツーリーのうた」
（長編アニメーション）

場　所　芸術文化振興基金助成作品
文化会館　4階ホール

日　時　7月10日（日）
10時～11時30分
12時～1時30分
2時～3時30分

入場料　4歳以上600円

主　催　都留親と子のよい映画をみる会

協　賛　都留市文化協会

問合先　☎（43）5040
渡辺春子

ふるさと納涼祭

市民の皆さんのふるさと意識の高揚を目的として、ふるさと納涼祭を実施します。また、練習も行っていますので、ご参加をお待ちしています。

日　時　8月14日(日)・15日(月)
午後7時30分～9時30分

場　所　谷村第一小学校校庭

実施団体　ふるさと納涼祭実行委員会

主催団体　都留市商工会青年部

共催団体　谷村地区婦人会

○盆踊り練習日

日　時　7月12日(火)・19日(火)・26日(火)
8月2日(火)・9日(火)（総練習）
午後7時30分～9時30分

場　所　文化会館4階大ホール